

## 見ないのに信じる幸い

先週はイースターを皆でお祝いしました。イースターというのは、イエス様が復活された日です。今から2000年前のこのイースターの日、十字架の上で死んでしまったイエス様は、墓の中から蘇られました。そして、マグダラのマリアさんを初め、お弟子さんたちにその姿を現されたのです。ヨハネによる福音書20:1～23には、その時のお話が記されています。今日はその続きです。そこにはどんなことが記されているでしょうか。皆で見てください。

皆さんがお持ちの新共同訳聖書では、今日の聖書箇所「イエスとトマス」という小見出しがついています。そこから分かるように、先程お読みいただいた聖書箇所、ヨハネによる福音書20:24～29はトマスさんという人のお話に他なりません。このトマスさんはイエス様が「復活したよ」とお弟子さんたちにそのお姿を現された時に、その場にはいませんでした。そこで、イエス様と出会ったお弟子さんが、「私はイエス様を見たよ」と言っても、トマスさんは、「そんな馬鹿な。人違いだろう。そうだ。もしその人がイエス様だったら、十字架で磔にされた時の傷があるはずだ。僕は実際にその傷を見て、その傷に触らないと、その人がイエス様だって信じないぞ」と言って、そのお弟子さんの言うことを信じようとはしなかったのです。

それからしばらく経って、またイエス様がお弟子さんたちの前に姿を現されました。しかも、この時はトマスさんも一緒にいました。さあ、どうなったのでしょうか。イエス様はトマスさんに「さあ、私の傷に触れてごらん。そして、私だと信じて」と仰いました。恐る恐る、トマスさんはイエス様の傷に触ります。するとどうでしょう。「あ、本当に十字架で磔にされた時の傷がある。本当にイエス様だ。じゃあ、イエス様は本当に復活されたんだ」と、トマスさんはそこで初めてイエス様が復活されたことを信じて喜びに溢れました。

そんなトマスさんに、イエス様は言われます。「私を実際に見たから、また、私の傷

に触って確かめたから私のことを信じたんですね。でも、そんなことをしなくても信じる人になって欲しいな」と。これが今日のお話です。

イエス様が最後に仰った言葉は、今の私たちにも関係のある大切な言葉ではないでしょうか。今の私たちも、神様というのは目に見えないから、よく「神様、本当にいてくださっているのかな？」と不安に思います。どうしても神様を信じることができなくて、トマスさんがイエス様だという証拠を求めたように、私たちも神様に、「神様、きちんといてくださっている」という証拠を求めることがあります。「自分に都合の良いことを起こしてよ」と求めてしまうんですね。何か苦しいことの中にあれば、たちまちそれが解決されるような、そんな奇跡を求めます。

皆さんも辛いことがあったり、悲しいことがあったりした時に、「神様がいてくださるなら、なんでこんなことになるの？神様、いらっしゃるんだったらすぐに解決してよ。また嬉しいこと、楽しいことばかり与えてよ。そうじゃないと、神様を信じられない」と、神様を信じるのに都合のいいことばかり求めて、それが与えられないと神様に背を向けてしまっているということはないでしょうか。

でも、今日の聖書箇所イエス様が最後に仰った言葉を思い起こせば、神様はどんな時でもきちんとみんなのそばにいて、「たとえ目には見えなくても、嬉しいこと、楽しいことばかりじゃなくても、私はここにいるよ。みんなのことを愛しているよ。そのことを信じて」と語りかけてくださっているんだと思います。そのことを信じることができれば、たとえ苦しい中にあっても私たちの思いを超えた神様の思いが成るまで神様、イエス様に支えられます。

嬉しい時、楽しい時、神様に「ありがとう」と感謝するのはとても大切なことです。でもその一方で、私は「神様、本当にいてくださっているのかな？」と不安になる辛い時、悲しい時にこそ、「私が支えてるよ。一緒に頑張ろう」とそばで励ましてくださっている神様の声を聞きたいと思います。そして神様を信じていきたいと思います。

いつも神様をそばに感じながら、皆で一緒に歩いて行きましょう。そうしたらきっと神様はお喜びになって、「ああ、あなたたちは幸いだ」と、この上ない祝福を与えてくださいます。

お祈りをいたします。 ——以下、祈祷——